

平成27年度 第3回 府中市保健計画推進協議会会議録

日 時：平成28年2月15日（月）
午後6時45分～8時20分

場 所：府中市保健センター
第1母子保健室

- 出席者 委員：赤須 文彰（医療・府中市医師会長）
飯嶋 智広（行政・多摩府中保健所 保健対策課長）
藤原 佳典（学識経験者・
地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所）
森本 幸子（公募委員・市民）
渡邊 信（医療・府中市歯科医師会）

事務局：川田福祉保健部長
三ヶ尻計画推進担当理事
横道健康推進課長
福田健康推進課長補佐
福嶋成人保健係長
神田保健師（成人保健係）
岩崎保健師（成人保健係）
石堂保健師（成人保健係）
島村保健師（成人保健係）
植松歯科衛生士（成人保健係）
加藤栄養士（成人保健係）

※協議会設置要綱第6条の2項により委員6名中5名が出席しているため、本協議会は有効とされました。

- 進行：福田補佐（事務局）
- ・開会宣言
 - ・配布資料の確認 ※配布資料は別添参照

■これより議事進行は会長となる。※傍聴希望者なし。

【委員】次第の通りに進めていく。

1 報告事項

(1) 元気いっぱいサポーター意見交換会について

【事務局】元気いっぱいサポーター意見交換会について、資料1、資料2に基づいて説明する。

府中市では、元気いっぱいサポーターに健康づくりに前向きに取り組み、周りに伝えて、地域をつなげ、府中市全体を元気にしてくれることを期待して、活動募集をしています。

第2回協議会で報告しました「ウォーキングマップの作成」と、9月29日に行った「からだ★スキャン大測定会」について、その後の活動状況を報告します。

前回の協議会から、10月、11月で実際にサポーターの方々と職員とで各コースを歩いて確認を行いました。例として資料1-1はリニューアル前のコース、資料1-2で修正した新コースをあげています。

サポーターの方たちと一緒にコース確認を行う中で、新しい道や安全な道を再発見しました。また、サポーターの方たちとお話しながらのウォーキングで親しくなれましたし、ウォーキング以外にも他の催しに参加するなど、サポーター同士の交流もみられました。

実際に私たち職員も何度かコースを歩いてみて、総合体育館のまわりも非常に良いルートであり、6コースを7コースに増やしました。またショートコースの必要性を感じましたので、各コースメインとショートの2つのコースを作成しました。資料1-3は今回新たに作成した総合体育館のコースです。

今月4日に行われた「意見交換会」では、6名の元気いっぱいサポーターの方に参加いただき、修正した内容を確認し、全体としてのマップの見せ方や安全面からのルート変更等の意見をいただきました。性別、年齢が様々なサポーターの方々から色々な角度でご意見をいただき、よりよいウォーキングマップになることを期待しています。

平成28年度は、マップを活用した事業のイメージしとして、地域体育館ごとに作成していることから、その近隣地域住民を対象とした事業の展開を考えています。具体的には、保健計画の重点取組で取り上げている、地域のつながりの醸成に資する事業や、健康危機管理の啓発につながる事業などを想定しています。

続きまして、「からだ★スキャン大測定会」についてですが、第2回第測定会の実施に向けて意見交換会を行いましたので報告します。資料2をご覧ください。

よりよい測定会にするために第1回参加者からどのように運営したらよいかのヒントをいただきたいと考え、意見交換会をおこないました。5名の元気いっぱいサポーターの方に意見交換会に参加していただきました。

ご意見では「当日混乱していたが、予約なしで参加できるところは気軽によかった」「健康づくりのいいきっかけになった」「もっと大測定会の回数を増やしてほしい」等参加者の目線でお話していただきました。ご意見をいただいて、200名を超える方に当日

来ていただき、私たちのターゲットとした内容と参加者のニーズがマッチし、多くの方に受け入れられた大きな要因をつかむことができました。

2月27日に第2回からだ★スキャン大測定を行う際は、意見交換会にきていただいた5名全員がスタッフの補助として可能な時間入ってもらい、3月に実施後の意見交換会を行いう予定です。このご意見を来年度の事業に繋げていきたいと考えています。以上です。

【委員】

ウォーキングマップは、市民と歩き、親しみを持って作られたと思う。今後、より啓発していく際に、万歩計や活動量計などを活用される場合も多いかと思う。自分で記録を残したり、場合によっては、活動量計などを配布する自治体もあるが、予算的なこともあるので、その必要はないかと思うが、記録シート、たとえば、「東海道五十三次マップ」のような、どの位歩いたらどこまで行っています、みたいなものをお配りしたりするのも良いと思う。自分で測りたい人、記録したい人は、そのようなものを活用して始める。ひとり測り出すと、自分も万歩計を買ってやろうかなという風潮も出てくると思う。記録する習慣を啓発するとよいと思う。

(2) 「健康と安全・安心な暮らしに関するアンケート」について

【事務局】 健康と安全・安心な暮らしに関するアンケートについて、**資料3**に基づき説明をする。

平成26年度の協議会から委員の皆さまにさまざまなご意見をいただいておりますが、最終内容を資料3のとおりにまとめました。

全16ページ、設問数は46問です。健康状態を聞く設問から第2次健康ふちゅう21の重点取組となっている「社会参加について」や、「健康危機管理について」まで盛り込んだ、幅広い内容になりました。

調査対象は、住民基本台帳より平成28年1月15日現在の18歳以上10,000人を府中市の年齢構成に従って無作為抽出しました。調査方法は、郵送配布・郵送回収です。2月1日に発送が済み、12日金曜日時点で2,089通の返信がありました。締め切りは2月19日に設定しています。返信がない方へ、締め切りを再度設定し、督促のハガキを送付する予定です。最終的な回収率は過去のアンケートの回収率を参考に40%4,000名を見込んでいます

平成28年度に藤原先生にご協力いただき、集計や分析を実施していく予定です。以上です。

【委員】 ご意見ご質問がなければ、報告事項なので、最後にまとめて質疑応答を伺います。

(3) 「検診受診に関するアンケート調査報告」について

【事務局】 「検診受診に関するアンケート調査報告」について、**資料4**に基づき説明をする。

がん検診に関するアンケート調査の集計結果について資料4-1をご覧ください
この調査は、重点取組の一つに掲げている「ライフステージに応じて定期的に検診を受診する」に関連して、市民にどのような受診環境が望まれているかを把握することを目的に、今年度5月から実施しました。胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、子宮がんの5つのがん検診で、受診者に対して、「検診を受診した理由」や「今後、市に希望すること」などについて、検診の待ち時間に記入していただきました。

資料4-2をご覧ください。こちらの資料は集計結果の一部を抜粋したものです。アンケート回収の総数は7114でした。

年齢別集計は表1のとおりです。

表2は設問4で聞いている「がん検診を受診した理由」の1位の集計結果です。
どのがん検診アンケートでも「がんが心配だから」が最も多く選ばれています。
また、大腸がん検診と乳がん検診において、公募と勧奨とを比較すると、「市の検診を初めて知ったから」が勧奨で10.3%、乳がんが1.4%多い結果となりました。

表3は設問5で聞いた市に望むことの1位を集計したものです。
「複数の検診が同時に受診できる」がどのがん検診でも最も多く選ばれています。
複数の検診同時受診については、多くの人が望んでいるだろうと考えていたところではありますが、今回のアンケートで、最も優先順位が高く望まれていることが把握できたため、早急の実現できるように検討を進めているところです。平成28年度は、比較的他の検診と同時に実施しやすい大腸がん検診を、胃がん検診や乳がん検診と同時に受診できるようにしていく予定です。

また、平成24年度からこの協議会でも検討を進めてきた、がん検診受診環境整備については、平成28年度にレベルアップして実施していく予定です。内容としては、特に受診してもらいたい年齢に対する勧奨通知の強化として郵便料等の確保のために、全がん検診の一部を有料化するとして、来月の3月議会で予算案が審議される予定です。
「複数の検診の同時受診」のほかに、定員数の増加や、がん検診周知の強化を行うとともに、申込みから受診日決定までの流れをより簡略化し、受診者が予定を組みやすいような環境を整えていきたいと考えています。

詳細は来年度の協議会でご報告できればと思っております。以上です。

【委員】 複数の検診が同時に受けられるようにしていくという話ですが、ご意見、ご質問がなければ、一先ず先に報告事項を進めます。

(4) 健康増進事業について

【事務局】健康増進事業について説明をする。(資料なし)

第2回保健計画推進協議会で、保健センター3階で行っている健康増進事業につきまして、公共施設マネジメントなどとの関係で事業の見直しを検討していきたいということで審議をしていただきました。利用者と意見交換を重ねているところですが、1月15日に、第3回健康増進室利用者との意見交換会を開催しました。

意見交換会では、利用者が60人ほど参加し、いろいろなご意見をいただきましたが「運動機器の全撤去は認められない。」との意見に終始した意見交換会となり、意見の一致は見られませんでした。意見交換会終了後、現在の利用者による「保健センター健康増進室に関する嘆願」として、府中市長あての署名活動がなされているほか、様々な市議会議員に個別に相談し、市議会議員が複数、現場を確認するなどあり、管理職が議員対応にあたっている現状です。

今後については、運動機器の老朽度を見ながら「段階的な運動機器の撤去」や、「健康増進室の有効活用」など、保健センターの機能として、幅広い活用に向け、現利用者の理解が得られるよう、次回、3月中旬の意見交換会に向けて準備しております。

【委員】 私は内科医ですので、私の患者さんに関して、胃カメラ・超音波などを積極的にやっているが、糖尿病・高血圧で長く掛かっている患者さんのカルテを見て、何も調べていないと驚いたりすることがある。2～3年前に続けて長年診ていた患者さんが、胃がんになりショックを受けました。患者さんに検診の声掛けをしても、はあそうですかそのうちに受けますとか、ご意見伺っておきますと言って、受けない方は結構いる。残念だと思う。市でも積極的に勧奨していくことを押し進めて欲しい。広報ふちゅうで、勧奨やっていますではなく、もっと積極的に声かけしてとよいと思う。たとえば、特定健診で受診券が送られてくるのと同じようにするとよいのではないか。あそこで市の検診やっているので受けましょう。ではなく、一人一人に田中さん、鈴木さん、積極的に受けてください。と個々にいうのが大切だと思う。

【事務局】 広報だけでは足りないと同じように考えている。国のクーポン事業で、特定の年齢の方に受診券を送るというシステムあるが、このシステムが始まった後、市としても独自の年齢層を検討して個別通知を行っている。5がん検診のうち、子宮、乳、大腸がんの3検診については勧奨通知の対象としている。来年度からは有料化を導入する予定もあるので更に、勧奨通知を送る年齢層を増やす方向で検討をしている。乳・子宮がんは8年齢を10年齢に、大腸がんは5年齢を6年齢に増やす予定です。勧奨通知が増えるので予算が膨らむのですが、定員も10%ずつ増やす予定で、3月議会で審議される予定になっている。また、広報は、新聞折込みで全戸配布ではないが、健康に関する情報は、全てに家に届けたいので、来年度は、全戸配布で健康応援ガイドを配る予定です。この健康応援ガイドの内容は、検診の申込み方法、対象者の年齢、がん検診だけではなく、他の教育事業、講演会等、様々な健康推進課が行っているほ

ば全部の内容を載せ、全戸配布する予算で、3月議会で審議される。

【委員】かなり個別のアプローチが充実するということですね。

【委員】要望として、予算があるが、胃がん、大腸がん検診は、できれば2年に1回やらせたい。本当は1年に1回やった方がよいが、なかなかそうはいかないので2年に1回はどうか。

【事務局】申込みをすれば、胃がん、大腸がん検診は毎年受けられ、市民には毎年受けてくださいとお知らせしている。但し、乳、子宮がん検診に関しては、国の指針に基づいて2年に1回ということで受診間隔を設けている。

【事務局】本日、26市の課長会があった。そこで、国からがん予防重点の見直しが正式になり4月1日からになった。胃がん検診に関しては、府中市では40歳以上を対象としているが、50歳以上を対象になる。但し、胃のX線検査は当分の間40歳以上でも差し支えないという含みを持った表現になっている。内視鏡検査については、50歳以上2年に一回ということでした。国のマニュアルはまだだが、50歳以上の年齢の上限はない。検診に伴うリスクもあり、内視鏡ができる医療機関も限られている。多摩がん検診センターでも要精密になった方の対応が限界という地域の状況がある。大腸がんのように検体を出せばよいというものではないので、がん検診を市がどう進めていくのかということでは、医療の目線と受け皿の各市はかなり悩んでいくと思う。年齢要件、検査の仕方など国の縛りをみて、府中市ではこれができる、できない等ご相談させていただきたい。乳がんに関しても、視触診は必要ないということで2年に1回という指針が出されている。様々な見直しがされているという状況を申し添えさせていただきますが、今後ご教授いただきたいこともありますのでよろしくお願ひしたい。

【委員】状況を説明しますと、胃の内視鏡できる医療機関は限られている。アンケートを取らないとはっきりとは分からないが医師会でも多くないと思う。先日、東京都がん検診センター運営協議会でも内視鏡の話は出た。バリウムと胃カメラのどちらがよいと言えば、胃カメラが最終確定診断になるのでよい。全て胃カメラによる診査がよいが、医師の人材不足もあり、医療機関が少ないので現実には難しい状況である。

2 審議事項

(1) 元気いっぱいサポート事業計画案について

【事務局】元気いっぱいサポート事業計画案について、**資料5**に基づき説明する。

元気いっぱいサポート事業につきましては、第2次健康ふちゅう21の主要事業として位置づけて実施しているところですが、初年度である平成27年度につきましては、別紙5-3のとおり、ソフトパワーの活用及び情報提供の取組を実施しました。

ソフトパワーの活用については、本日説明いたしました検診受診者に対するアンケート、教育事業等の中で参加者同士が触れ合える機会の提供などを実施しました。また、

新規事業としてからだスキャン大測定会を実施しました。

情報提供の取組ですが、健康応援ガイドの配布や商工会議所と連携した情報提供、大学と連携した栄養事業等を実施しました。

第1次計画期間中と比較して、積極的にサポーターに働きかけるように努めた結果、複数の事業に多くの参加者を受け入れることができました。また、情報提供に積極的に取り組み、例えば第2回大測定会の申し込みは、市報を見た方だけでなく、商工会議所や中小企業勤労福祉公社が発行する情報誌を見て申込みいただく方も多数ありました。

平成28年度の事業を検討するにあたり、元気いっぱいサポーターを対象にしたアンケート結果を参考にしました。アンケート結果については現在分析を進めており、概要について抜粋して報告します。

発送数601人のうち、回答数325人で回答率は54.1%でした。問1ではサポーターに登録したきっかけを聞いており、自己の健康管理のためが1番、健康増進室の利用のためが2番でした。増進室については、平成25年度から利用者登録の際に元気いっぱいサポーターであることが条件の一つとなったことから、割合が多いと考えられます。3番は社会とのつながりを持つためとあり、元気いっぱいサポーターの活動がソーシャルキャピタルの醸成に寄与する可能性に期待できます。

問3・4では、回答者の地域でのつながりについて聞いており、相談したり話をする人がいると答えた人が合計71.6%、異世代との交流については、とてもあるまあまああるを合わせて62.4%といずれも高い割合となりました。

問7では、サポーターとして、ボランティアや社会貢献活動をやる意思があるかを聞いており、思うが20.6%、今はできないがいずれやりたいが36.9%となりました。思う・いずれはやりたいと回答した方で、可能な活動頻度を聞いたところ、週1～3時間が42.5%、問8では、サポート事業の企画運営に興味がある方が23.7%の77人いました。

自由記載では、「どんな活動をしているか積極的な広報を求む」「何かできることがあれば参加したい」など、サポーターの活動についての周知を推進する声が多く出されていました。平成28年度に向けた課題であると考えています。

以上のアンケート結果を踏まえ、来年度の事業計画（案）として、既存事業として3点、新たな取組として6点を考えています。

新たな取組において重点的に取り組むこととして考えているのは、情報発信の強化です。ホームページやチラシなどを活用して周知を進めてきましたが、保健センターを訪れる市民に対する、元気いっぱいサポーターの周知がまだまだ進んでいない状況があり、掲示板やオープンラックを活用して、サポーターの活動を身近に感じてもらえる工夫を進めたいと考えています。

また、今後サポーターリーダーの発掘につながるように、サポーターとのコミュニケーションを図る機会を増やし、サポーターからの提案を具体的に検討する機会を設

けるなど相互に意見をやり取りできるように市の事業への理解を深めてもらえるように努めていきます。以上です。

【委員】 元気いっぱいサポート事業を来年度どうしていくかということですが、ご意見ご質問をお願いします。一昨年度から策定の時からの課題として、サポーターにどこまでのことを期待するかというところが議論になっていた。今は、単に自分のための活動ということで参加されている方が多い中で、自分のための活動でも増やしていけばよいという考え方もあれば、2割位の方は、実際のボランティアやサポートする側にまわってもよい方もいる。二層構造的なところもある中で、普及していく考え方もあるが、そう言ったことも含めて、来年度どういった形で進めていくのか、報告を聞いてご意見、ご感想をお願いします。

【委員】 からだスキャンで1回目計測に来た方が、2回目お手伝い願えたということだったが、そういう方にもサポーターさんにどうですかという話があったのですか。入り口が測定ということで、測定に来た方の普及啓発はどうなるのか。

【事務局】 第1回目で元気いっぱいサポーターになっていただいた方で、今回スタッフ側に入ってもらう方は5名いるが、2月27日運営側の補佐として入り、3月3日に意見交換会を予定している。利用者側とスタッフ側からみて、広い視点で意見を出していただく。平成28年度以降もこの事業は続くので定期的な意見交換会を設けながら事業を発展させていきたいと考えている。第1回目にサポーター登録したのは206名の参加者のうち67名、その内、企画運営を希望されている方は7名でした。2回目以降もサポーターを募集していくので、サポーターが増え、企画運営希望する方もどんどん増えていくことを期待している。お手伝い願う内容もレベルアップし協働し推進していけたらよいと考えている。

【委員】 確かに測定というセルフチェックを入り口として意識を高めたり、サポーターになったりしている。今後、いろいろ期待できる。

【委員】 元気いっぱいサポーターは、企業参加はあるのですか。

【事務局】 団体としては33団体が登録、内訳としては、食生活改善推進委員、スポーツクラブ、自主グループ、歯科医院、薬局などが登録している。企業としての登録は数が少ない。第1次の計画スタート時は企業やお店などにPRしていたが、現在は市民向け周知に力を入れ、その部分に関しては足りなかったかも知れない。新たな取り組みとしては、計画策定時の調査でご協力をいただいた企業8社に、事業普及啓発として研修のご案内などして繋がりご協力をお願いしている。来年度以降、連携していける部分を増やしていきたいと考えている。

【委員】 企業連携は、都市部では特に大切だと考える。元気いっぱいサポート事業の情報発信という点で、保健センターの利用者とか、どうしても偏った人、市民の中ではごく一部のみにしか啓発のルートがない。おそらく一般の市民からするとスーパー、駅

前などで啓発した方がインパクトもあり情報を発信する効果が高い。企業連携もオフィスで仕事をしているところも重要だが、実際に市民と接するお店とかの方が効率的と考える。ぜひ、幅広い業種と連携を考えるとよい。

【事務局】ありがとうございます。今後、検討していきます。

【委員】スポーツに熱心な企業もあるので、そういう企業と連携をすると、この事業自体が注目されるのではないか。アンケートに答えている年齢層が幅広い年齢層のようだが、介護予防事業の担当も健康推進課なのですか。

【事務局】介護予防事業は、部は同じだが高齢者支援課が担当している。分倍河原にある介護予防推進センターで事業を行っている。からだスキャン大測定会に関しては、一部の機器を借りている。そこから、スタッフも来て、測定を一緒にやったり、参加者向けにその場でできる体操をやらしてもらったりして連携を取っている。

【委員】元気いっぱいサポーター事業と介護予防事業と対象者が重なっているという印象持ったので、事業としての区分け、逆に、一緒にやる方法もあると思ったのでお伺いした。あと、ウォーキングマップは、今回3つ提示していただいているが、これは完成型ではなく、これからまだ改善していくのですか。

【事務局】はい、そうです。20年度に作成したコースは6コースあり、全てリニューアルし、これに総合体育館のコースが加わり7コースを計画している。

【委員】わかりました。今回提示していただいた3コースをみますと、歩くことに興味のある者はこれで良いと思う。ただ、歩くことに興味のない者に対しては、歩こうという気を起こさないかも知れない。観光的要素、内容を加えると、知的好奇心をあおられ、より多くの方が歩くことに興味を持つかも知れない。観光スポットは書かれているが、たとえば、資料1-2のシンボルタワーの噴水塔の歴史、どういう塔なのかを書き込むと、歩くことには興味はないが、歴史や建物に興味のある方がマップを活用できるようになり、より広い対象者に、歩くことが目的ではなくても、結果として歩くという行動に繋がるのではなか。ヘルスプロモーション的な考え方になるが、別のものの興味から、結果として健康に繋がるのであれば加えたほうがよいのではないかと考えた。府中の歴史等を担当している部署と連携してやるのもひとつの方法で、より良いものが出来上がると思う。

【委員】飯島委員の話聞いて、とても良いと思った。私は歴史が好きなので、たとえば、浅間山公園、人見街道のところに人見四郎という武士の墓跡がある。浅間山にただ行くのではなく、そういうのも取り上げてみると面白いと思います。「キスゲ」もあるが見られる期間は半月位しかなく、何回か行っているが見たことがない。それよりも墓跡はいつもあるのでよい。府中市は、大国魂神社等の史跡がたくさんあるので、史跡からマップを作るとすごく楽しいイメージがある。

【委員】違う切り口で、歴史を前面に出すと歴史好きをキャッチできるかも知れない。そういう方の健康とか、健康づくりに繋がるよいアイデアだと思いますので、ぜひお

願いたいと思います。

栄養の取り組みで、大学との連携も一定の成果を得たと報告がありましたが、大学との連携も大事で、大学側も国際化か、地域との連携で生き残るかという二者選択という感じである。栄養面で大学と連携して成功されたということですが、もう少し詳しく教えていただきたい。そして、イベントで終わってしまうのか、定期的な交流やプロジェクトに持っていける見通しがあるのか教えてもらいたい。

【事務局】大学生の食生活はどのようなものなのかを知るために、今年度初めて、農工大学生を対象に「やってみよう！写真を撮って送るだけ！かんたん食事診断」を10月に実施しました。まず、大学の食堂前でちらしを配布しながら声かけをしました。1日に食べた物全ての写真がメールで送ってもらい、バランスガイドを用いて食事診断をし、アドバイスを書いて郵便で返送しました。「私の食事どうですか」、「運動をしているが最近太りやすくなっているがどうですか」、という質問もありアドバイスをした。来年度も実施予定だが、今年度は回答が少なかったため、集客を得るため、検討をしなければならないと思っている。

【事務局】この事業は、食育という切り口から始まっていて、食育の推進というのも食育推進計画から始まっている。大学生の食の不安定な部分をどうアプローチをしていったらよいか。市内には、農工大、外語大、工学院などがあるが、協力をいただいたのが農工大だった。事業としては、まだヨチヨチ歩きと思うが、複数の学生から送られてくるデータ、写真を見ると、ばっちり食べている学生と、そうでない学生とがいる。市としては、どうアンテナをたてて導いていくのかまで、少し時間がかかるのかと思う。栄養士と市が頭を下げてお願いしますとアタックしている状態なので、共同になるまでの素地はできにくいと思っている。好評ではある事業なので少し時間が掛かると思うが、続けていく中で捕まえていけるかなと思っている。

【委員】他市の食育の状況を見ても、一番課題になるのは、男性一人暮らし20代30代の食事で、レトルトやコンビニの食事ばかりで課題があると思う。学生もだが、自分で写メを送ってくる方は意識が高い。若者世代の食を改善しようと思うと、個人の行動変容よりも生協や食堂などを巻き込んでやって、原因の原因まで遡らないと難しい部分があると思う。栄養の専門大学の方々との連携であるならば、ジョブトレーニングというか、診断をデジタルにするのではなく、一般住民の相談の模擬練習ということで、学生も地域の人と接することがないので、対人の相談に乗ったりすることができ練習の場になり、学生の直接のトレーニングになる。今後、学生と市民を **face to face** で結びつけ、実際に料理教室などの取り組みを考えていくとよい。大学側も各教室、教授も卒業論文を指導する上で、データを取らしてあげたいけれど、地域でいきなりアンケートをするのも無理なので、実は役所とパイプを結びたがっている先生方もいると思うので、そういうところと結びつくと **win-win** で協働共同事業が長く続けられると思う。そういう情報を集めていただくのも大事だと思う。

- 【委員】 サポーターは居た方がいいけれど、ボランティアの継続は難しい。その人達が活動をして何かメリットがあれば続くと思うが。たとえば、検診が無料になるとか。何かしら餌がないとその人達は続かないのではないか。
- 【委員】 モチベーションを維持していくのは難しいこと。市民と協働するには、お互いのメリットがないとよい関係が続かない。市として何か考え構想はありますか。
- 【事務局】 検討段階だが、健康増進室の利用者には多くのサポーターがいる。その方は、日頃から自らの健康づくりに取り組んでいるが、計測し数値として見る機会がなかなかない。市としては、そういう方達の意見を取り入れたいので、来年度、測定会を実施する。その個人のビフォーアフターのように、年度の始めにいくつかの項目の計測をして、何ヵ月後か年度の終わりにもう一度計測をしてもらい、普段の取り組みがその方の健康に結びついているのか否かが分かるような場を設けることを考えている。市民のメリットは、自分自身の健康づくりが目で見える化し、モチベーションに繋がっていくことを期待している。市としては、市民の生の声が聞こえる場として設けられるのではないかと考えている。先生のおっしゃる win-win という形に結びつくのではないかと検討している。
- 【委員】 ボランティア、サポーターというのは、目で見えるメリットも大切だが、やっていて楽しいとか、やりがいがあるとか、特に退職された方は自分の役割をもう一度持つことで長くされる方が多いと思う。その辺りを本気で掘り起こすと、いい意味で、はまってくださる方も沢山いると思う。メンタルな部分でのメリットを出す可能性があると思う。いずれにせよ、機会や情報がないと知り得ないので、はまってもらえないので、このような戦略が大切である。リーダー格の人だったりすると地域で枝葉が広がり、体操する人、場が増える。市としては、サポーター育成はメリットがあると思うが、住民としては、やりがいがあるというところでの折衷案、どう見つけていくかが大事である。できるだけ市民の方と接して啓発する場を増やしていくことが大切である。
- 【委員】 話を聞いてすごいと思っている。昨年、高野市長と話した時、市を盛り上げていくには、このようなことを積極的にやっていけば、府中市が元気な街になっていくと思う。サポーターも増やせるものなら増やしていける。都立府中の森公園があるが、お年寄りの方達が集まってラジオ体操などをやっている声がする。ほのぼのとしていた光景がある。もっとあちらこちらから、そのような声が出てくると良いと思う。
- 【委員】 赤須委員の2年に1回の話をもつて、検診を受けた後、何でもなかったですよ。という結果を貰ってホッとして終わっていた。次に、広報を見て、前にいつ受けたかなと思った時、いつだったか思い出せない。健康手帳を見て、また受けないといけないと思った。赤ちゃんには、母子健康手帳があるが、随分前に貰った健康手帳でよいのかと思ったり、健康手帳にすぐに書けばよいが、忙しさにかまけて書けなかったりする。何かあるとよいと思った。

【事務局】健康手帳は、40歳以上の市民に対し無償で配布している。母子健康手帳と同じ大きさA4サイズの4分の1で、ご自身の検診の結果、記録ができるだけでなく、様々な啓発に繋がる知識や情報も掲載している。今年度から、40歳市民全員に受診券を送付する肝炎ウィルス検診に健康手帳を同封している。健康手帳は何年間か使用できるようになっているので記録をつけて利用して貰いたいと思う。また、乳がん検診等の受付でもお持ちでない方に配布している。検診だけでなく予防接種の記録ができる。また、第二次保健計画の時に実践編として、最後のページにがん検診の日付、結果が最大5年間分記録できるように作成した。このページの周知を含めて、周知をもう少ししていかなければいけないと改めて感じた。

【委員】健康手帳は、よくできている。

【委員】私の健康手帳は随分旧式、今のはカラフルになっている。検診結果を貰ったら、すぐに書く習慣をつけると良い。

【委員】元気いっぱいサポーターは、今後、学習会とかステップアップのため研修会か何か予定はあるのですか。担い手として一緒やって貰うには、健康に関する知識を整理したり、モチベーションをあげて貰ったりする必要がある。意見交換会だけでは、学んだ気持ちがないと自分自身がステップアップした気持ちにならない。その辺の見通しはいかがですか。

【事務局】今年度から意見交換会を始めたのですが、こちらからウォーキングマップとか大測定会とかテーマを決めて呼び掛けて、来ていただいている。今後は、意見交換会を重ねる中で、それ以外のテーマをいただけるような関係作りをしていきたい。意見交換会は来年度も実施する予定で、市としてはサポーターリーダーになっていく方達だとは思いますが、その意思確認にはまだ至っていない。今後の課題と思っている。まだ始めたばかりで、人数が少ないので、意見交換を重ねながら、サポーターの企画運営に興味のある方を除々に増やししながら、いずれは勉強会等もやりたいと考えている。

【事務局】この近年実施していないが、栄養改善推進員の方々の育成が自治体に求められている。一定時間の講座を受けていただいて、栄養知識やボランティアとして活動するレクチャーを実施する。28年度に開催する予定だが、その方達にはサポーターとしても活動していただく、ひとつのきっかけ作りになると考えている。特定分野、栄養に偏ってしまうが、ひとつの取り掛かり、モチベーションアップし、継続していただけたらと思う。

【事務局】単に、栄養、運動の知識を得るだけではなく、プラス、サポーターやボランティアでやる意義、地域でやる意義を啓発しなければいけない。地域づくりをしながら健康づくりになるように、個人の知識だけにならないように、講座とかも考慮するとよい。また、飯島委員から指摘もありましたが、アンケートにお答えいただいている方達は、60歳以上が大半である。現役世代で回答されている方達は、それなりに時間的余裕のある方なのか、常連さんなのか。これから新しい人脈としてどのぐらい期

待できる方なのか。

【事務局】今回は、既存のサポーターになるので、詳細は分からない。

【事務局】サポーターの登録人数もあるし、地域別に登録されている方がどういう感じになっているのか等も、ある時期を経て、みていかないといけない視点ではあると思う。現場も意見交換会に追われがちになってしまい、人材育成の視点とか、登録して続けている方、あるいは、自分の運動をすることをメインにしている方とかの属性というか、サポーターとして、何かをやって貰うのもあるが、ご自分で続けていくことも大切である側面なので 分析とまではいかないが、やっていく中で考えていかなければいけない。今回、職員は、サポーターとよい関係でできてよかった。今までは、職員と市民、職員として要望を伝えるだけ指導という立ち位置でしか係わりができていなかった。今回、ウォーキングを通して、地域が見られたのが、現場の職員の一番の大きな収穫である。また、ウォーキングマップは、東京都の補助金をいただきながら、形にしていきたいと思う。東京都でも力を入れているので、車の両輪としてやっていき、またご報告ができればと思っている。

【委員】 サポーターに関しては、これからも少しずつ続けていくことでよいでしょうか。

3 その他

- ・部長挨拶
- ・来年度も3回開催予定。日程については後日調整する。市民アンケートの分析、元気いっぱいサポーターの更なる推進について協議をお願いしたい。
本日の協議会は以上となる。（閉会）